



地域・自然と共生するGXに向けて

～シナジーとトレードオフと地域～

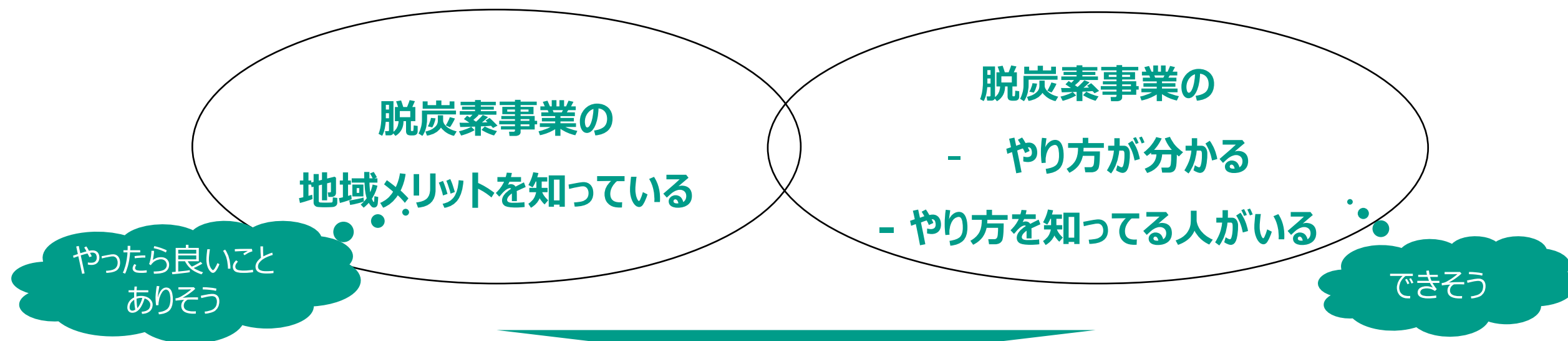
ISAP 2026 テーマ別会合

2026年9月4日

環境省 大臣官房 地域脱炭素政策調整担当参事官

浜島直子

当室のミッション：自治体実務における地域脱炭素の“当たり前化”



地域G内の各部署で役割分担しながら実施

- 脱炭素施行地域等で実践例を創出
- 地域経済循環分析の提供
- 実施方法のマニュアル化
- 自治体の政策づくりの支援
- アドバイザー派遣
- 官民ファンドJICNの運営支援

“当たり前化”を阻む、メガソーラーを始めとする再エネと地域との摩擦事案

「反対する人は少ない」けれど、実務では判断が難しい

これに反対する人は少ない

- 気候変動対策と生物多様性保全のシナジーが重要
- トレードオフはできるだけ避けるべき

実際に事業を進めると…

- それは本当にシナジーなのか
- このトレードオフは許容できるのか
- 誰にとってのトレードオフなのか etc.etc.

今日共有したいこと

- 一つの正解を示す場ではない
- 評価が難しい理由を整理する
- 地域との対話にどうつなげるかを考える

“良いこと”同士がぶつかるから、難しい

メガソーラー問題を構造的に捉える



※この画像はAIを用いて作成しました。

脱炭素

- CO₂削減は重要
- 再エネ導入は必要

自然保全

- 湿原・希少種の保全
- 地域の自然価値



どちらも「良いこと」
だからこそ難しい

事業者が直面する課題の多くは、
「悪いことを止める」よりも
「良いこと同士を調整する」構造。

気候変動と生物多様性とでは“見え方”が逆

気候変動対策



世界が見えて
地域が見えにくい

- 地域でCO₂を削減しても、恩恵は世界中に薄く分散。
- 地域の住民からは「本当に意味があるのか」と思えることも。



生物多様性保全



地域が見えて
世界が見えにくい

- 目の前の森林や湿地への影響は見えやすい。
- 一方で、食料・木材・鉱物資源を通じた世界の自然への依存は見えにくい。

同じ土地利用でも、シナジーにもトレードオフにもなり得る

地域Aにとっての 耕作放棄地での メガソーラー

- ・ 荒廃農地の活用
- ・ 景観改善
- ・ 雇用創出
- ・ 脱炭素
- ・ レジリエンス

同じ「メガソーラー」でも、
地域の文脈で評価は変わる



国が一律に
「これはシナジー」
「これはトレードオフ」
と決め切ることは難しい。

地域Bにとっての 耕作放棄地での メガソーラー

- ・ 草原環境の消失
- ・ 動植物への影響
- ・ 景観への影響

事業者が責任をもって、ナラティブに説明できるか

例：バイオマスプ
ラスチック



国の計画で位置付けられた
= 常に良い、ではない

重要なのは
作り方・使い方・地域性

原料調達
製造プロセス
使用・回収
地域への影響

責任ある説明



投資家・地域・行政に対し
なぜこの事業が地域と自然に
とって妥当かを語れるか
= TNFDの発想

数字は議論の出発点



数値化できるもの

CO₂削減量
面積
確認種数
発電量・設備容量



数値だけでは 語れないもの

子どもの遊び場
地域の祭りの場
地域のアイデンティティ
暮らしとの関係

**測ろうと努力することで
測れない価値が見えてくることも**

- ・科学的データと地域との対話の両方が必要。
- ・地域とのコミュニケーションは、「地域にとって何が大事かを知る」ためのプロセスでもある。

環境省事業のご紹介① 地域脱炭素と自然共生の同時実現に向けた地域共創推進事業

- 地域共生型の再エネ導入を進めるためには、地域の側からの「先手」を打った対応が必要。
- そのため本事業では、住民等の関係者に、地域の自然的社会的状況、再エネ導入ポテンシャル、再エネ導入のメリット等を説明するとともに、**再エネの導入がなされる場合にはどのような条件を地域として望むか**（地域裨益の取組、促進区域の範囲等）を聴取し、意見交換を行うことを想定。

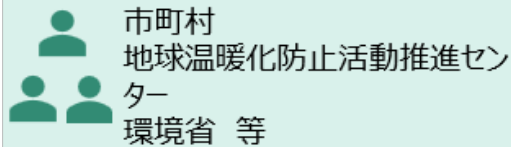
令和8年度の実施内容

②住民との意見交換等を実施

【意見交換会】



フォトモンタージュなどで具体的なイメージを確認しながら議論



市町村
地球温暖化防止活動推進センター
環境省 等
地域の状況、再エネ導入のメリット、促進事業制度の趣旨説明等

地域裨益の取組等
地域住民の意見を聴取

地域裨益をもたらすような再エネ導入であれば、自分たちにとってもメリットとなるかも！



地域住民

③住民等から聴取した意見を、各市町村にて「地方公共団体実行計画」に反映(促進区域の設定、地域の環境の保全のための取組、地域の経済及び社会の持続的発展に資する取組等)



実行計画（区域施策編）

その地域での再エネ事業実施の条件

ゾーニングマップ

※マップ作成は、本事業では必須ではない



地域としての再エネに関する意思を地域があらかじめ示し、個別の事業における事業者と住民等の摩擦を未然に防ぐ

④地域と共生し、地域の課題解決にも資する地域裨益を実現



地域住民

地域住民の意見を踏まえた再エネ導入



地域内での資金循環

令和9年度の追加要求内容

- 良い再エネの導入を推進するため、生物多様性・生態系の保全の観点から再エネの導入を原則として避けるべきエリアを明示した上で、当該エリアを**自然共生サイト**へと政策的に誘導する支援事業を新設。
- **生成AI**を用いた、更新しやすいマップづくりもモデル的に支援する。

環境省事業のご紹介② 再エネ優良事例特設サイト Good Echo



- “良い再エネは推進し、悪い再エネは抑制する”というが、“**良い再エネ**”などあるのか？という世の疑問に答える事例サイト。
- **自治体等からのリクエスト**も踏まえて開設。

- ✓ 再エネの導入に際して、
地域への貢献や自然との共生などに目配りしつつ、
話し合いと選択を重ねながら、
地域との共生を進めている事例。
- ✓ 地域住民や自治体の皆様に
実践のヒントとして活用いただくことを想定。



シナジー最大化の例

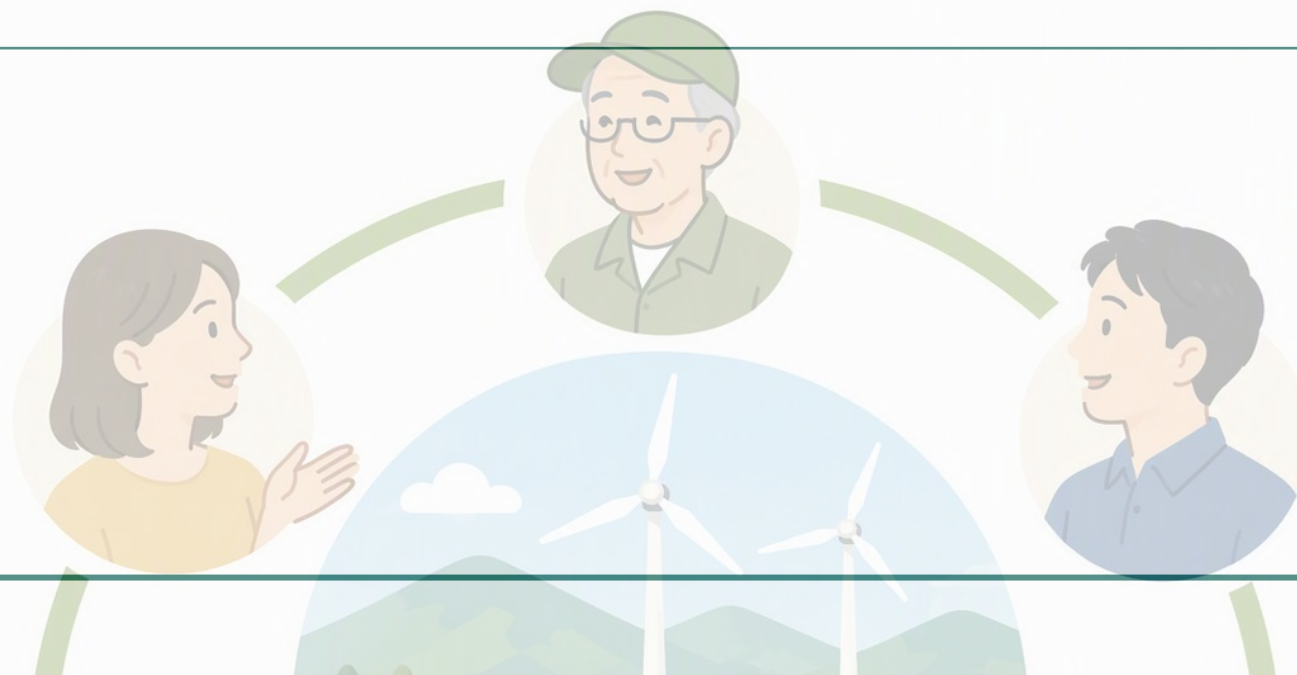


トレードオフ最小化の例





正論ではあるけれど・・・



再エネ事業の成否を決めるのは、地域との関係性



※この画像はAIを用いて作成しました。



ご清聴ありがとうございました。
